

フラメンコの樹

第2回

鈴木 真澄 (バイラオーラ)

Masumi Suzuki / 1958年中野生まれ。6歳でバレエ。12歳で新体操。15歳フラメンコ。18歳渡西。21歳結婚。22歳雄輔出産。23歳麻衣出産。25歳教室開設。26歳離婚。34歳雄輔渡西。36歳麻衣渡西。42歳会社設立。50歳初孫。60歳フラメンコ。俳句入門。



©GRASPANY

この年齢になると なかなかライブ出演に 誘ってもらえなくなりま

どうしてかなあ？

①お客様と近い舞台ではもう見た目がたえられない？

②こんな年寄りじゃ若手がやりにくい？

③ギャラが高そう？

私が考えるには、①見た目が……：そうですね〜シワが目立つし、体型はくずれてくるし、やっぱり若くてびちびちした可愛い踊り手さんの踊りが観たいですよねえ。

②他のメンバーがやりにくい……：小さなライブでもちよつとした工夫で出演者の一体感が生まれたり、ライブ全体に流れができたりすると思うので、つい「オーブニングこうしませんか？」とか、「こうしたらちよつとドラマティックになると思うのだけど……」などと言ひ出してしまいます。すると家族に、年上に言われたら断れないでしょ？と指摘され、そうだね〜押しつけに

なっちゃうかあ〜。だから最近はいひ方に気をつけながらやりわり、もしよかつたら、なんて……。それでもやっぱりお客様に楽しんでいただきたいから提案しちゃいます。先日のライブは皆さん私の提案を気持ちよく受け止めてくれて、唄い手さんと向かいあつてタンゴを始め、さびの部分も少しだけ一緒に唄った後追い上げて止まり、すぐにタラントへ。サリータで可愛い若手と絡み合い交代。それがとてもうまくいって初対面同士なのに心が一つになつて空

間も共有できて、もう感動しました！

リハーサルですすでに心が通ひあう感じがしたし、本番は当然のことながらまた違うやりとりが、ただのアドリブの動きだけで成立してとっても幸せな瞬間でした。それは、周りのみなさんにも伝わつたようで唄い手さんは感動して次に唄い出すのを忘れたくらい……。でも、それはそれで帰ってきた楽屋で盛り上がり、一生の思い出となるのでした。うまくいった事より、いかなかつた事の方が長く思い出に残りませんか？ 特に大失敗してあとと大笑ひになる場合、「伝説」と言っていることがいっぱいあつてまたここに一つの伝説が生まれた！という感じですよ。その時はみんな一生懸命だし、必死なんです。念のため。だから、断わられてもこりずにこれからも提案していこうと思つてます。あしからずご了承くださいませ。

③出演料は私の場合決まつてません。全体の予算もあることでしようし、自分も企画する側になることが多い、と言うかほとんど自分でプロデュースしますから、その苦勞を考えたら、何もしないでただ踊ればいいなんて、なんて楽しいの！それでギャラもらえるんだ〜なんて楽！

面白い話があつて、20年くらい前からお付き合いがあるアマチュアの普通の女性の方で、童

謡やポピュラーなど幅広いレパートリーで、それを施設などで子供たちに教えたり一緒に歌つたりしている方がいます。初対面は20年近く前、生徒さんのご紹介である日お電話をいただきました。「歌いながらカスターネットを叩きたいんです！教えていただけますか？」

よ

「それはいいですが、歌いながら叩いて難しいですよ」
そして、カセットデッキを持って汗びつしよりの女性がやってきました。カスターネットの説明と叩き方を教えたらすっかり落ち込んでしまつて……。お気の毒に思えた私は「よかつたら私がカスターネットだけやりに参加しましょうか？」と。これが最初のライブです。私から言ひ出したし、とても出演料のことなど言ひ出せるきっかけはなかつたのです。それからしばらくして、今度は違う設定で歌うので、その中から踊つていただけそうなお曲をお願ひします。と。全然悪気なし。とにかく一生懸命で情熱を持つてがんばっている姿に感動してお手伝ひすることに。そうやって何回もやってきましたが、時には交通費だけでもお願ひしようかなあとか。いやいやいろいろな方をご紹介いただき、お金には変えられないものをいただいたりした。そして、この度、数年ぶりにご連絡が来ました。他のメンバーは劇団に所属している方もいますが、私は一大決心。

「一応、私もプロとしてやらせていただいていますので、予算などおまかなもので良いのでお知らせいただき、私の出演の条件など教えてくださいますか？」

「ああ〜！私はなんて事してきたんでしよう！申し訳ありません。今回はきちんと出演料考へておりました！」というわけで一件落着。

ライブでしか味わえないことが山のようにあるし「年なりのよいところがあるのがフラメンコ」と言つてくださる方も多いので、まだまだ踊らせていただくと思ひます。